

Title	日本企業の資金調達が多様化と借入金に関する一考察
Sub Title	
Author	清水貢(Shimizu, Mitsugu) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第611号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0611

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	清水 貢	主査	柴田 典男
	(株式会社埼玉銀行)	副査	伏見 多美雄
所属ゼミナール	柴田 典男 研		矢作 恒雄

日本企業の資金調達が多様化と借入金に関する一考察

本研究は、財務諸表の調達項目の構成比を用いて、上場企業（建設業、製造業）の資金調達多様化の程度を測定し、資金調達多様化の業種別違いと、多様化している企業と多様化していない企業に層別した場合の特性の違いについて現状分析を行うものである。研究の手順として、まず企業金融が変化してきた経緯からその要因を考察した上で、上場企業105社の財務諸表の調達項目の構成比率を用いて、15業種の資金調達の特徴を考察した。そして、ハーフィンダール指数と分解指標を用いて業種別に資金調達多様化の程度を測定し、業種別違いを分析した。さらに、資金調達多様化の程度により105社の層別を行い、それぞれの特性の違いについて統計的に分析した。

資金調達が多様化しているという一般的概念は、一言では片付けられない。本研究の結果、(1)企業金融が変化してきた大きな要因は、主に無担保適債基準の緩和とスワップ技術の向上等であり、大きな特徴は社債、転換社債の調達比率の増加に表れている、(2)構成比率から多様化を計ると、社債、転換社債の調達比率の増加により、比較的利益率が高く無借金に近い業種は集中化が進み、比較的利益率が低く借入比率が高い業種は多様化が進んできている、(3)資金調達集中化が進んでいる業種は電機、自動車、食品等であり、資金調達多様化が進んでいる業種は鉄鋼、非鉄金属、造船等である、という事を判別することができた。

一方、資金調達の中味について見ると、社債、転換社債等において新しい多くのスキームが利用されており、多様化が進んできている。資金調達が集中化している企業は社債（ワラント債を含む）、転換社債、自己株式に資金調達を集中させており、これはまさに多様化の表れである。集中化している企業ほど財務に一層の努力をしており、中味はかなり多様化していると言えるであろう。逆に、構成比で多様化している企業ほど中味は多様化していないと考えられる。